

公益財団法人 アダチ伝統木版画技術保存財団

事業報告書

令和7年度

令和7年度事業報告書

(自：令和7年4月1日)

(至：令和8年3月31日)

I. 事業の状況

令和7年度において実施された各事業を定款第3条に定める事業内容の項目別により、次のように報告を行うものである。

〈事業内容〉

(1) 伝統木版画の制作技術等に関する調査研究等の奨励

① 研究等奨励交付事業

本事業のうち、絵画部門(木版画の版下絵等の作品公募)に焦点をあてた公募(「アダチ UKIYO E 大賞」)の第17回目を既存の奨励賞募集と共に実施した。アダチ UKIYO E 大賞に関しては、昨年度同様、「現代の浮世絵を描く才能のあるアーティストを発掘する」という公募趣旨に沿って、制作した作品を紹介するポートフォリオのみの募集を行い、審査を実施した。作品の公募期間は令和7年7月31日から令和7年12月25日までの約5ヶ月間とした。公募の告知については、ポスター・チラシによる広報を本年度は行わず、公募専門の雑誌やホームページ(日・英)及び本財団ホームページなどインターネット上での告知(日・英)を実施した。応募については既存の郵送による申込(日)と、オンラインでの申込(日・英)で受付けた。その結果395件の応募があり、令和8年2月16日に開催された審査委員会にて、大賞1件(奨励金総額30万円)・優秀賞1件(奨励金総額15万円)・佳作2件(奨励金総額各5万円)を選考決定した。応募者の内訳としては、海外からの申込が318件、国内からの申込が77件、合計395件となり、前年度の176点から倍増した。特に海外からの申込は前年度の100件から3倍以上の増加となった。また、これら海外318件の申込者の居住国は64か国にわたり、海外からの関心の高さをうかがわせた。また、本年度の大賞受賞者は日本、優秀賞受賞者は米国からの応募者で、昨年に続き海外からの応募者が受賞した。

本公募では本年度も、応募者の画風や力量、日頃の制作活動の成果に重点を置いて総合的に審査をし、現代の浮世絵師としての可能性を秘めた対象者を選出することができた。令和8年3月24日に授賞式を開催し、米国在住の Anuj Shrestha 氏を除く3名の受賞者が出席した。大賞および優秀賞の受賞者の作品は、令和8年度に木版画として制作され、「現代の浮世絵」として誕生することとなる。

既存の奨励賞については、伝統木版画の研究者ならびに関係者各位からも奨励テーマの推薦を受けると共に、広範囲に認知度の高揚をはかった。しかし、公募期間中に奨励テーマの応募や推薦は皆無であったため、本年度奨励対象該当者は無しとなった。

◆ 令和7年度 アダチ UKIYO E 大賞審査委員(4名)

小山登美夫

ギャラリスト

三井田盛一郎

東京藝術大学 美術学部絵画科 教授

山下裕二
中山浩子

明治学院大学 文学部芸術学科 教授 (敬称略・五十音順)
公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団 理事長



第1次審査風景



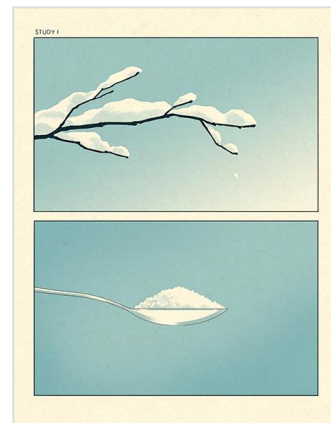
第2次審査風景

第17回アダチ UKIYO E 大賞受賞作品

- 《大賞》 賞金 30 万円 + 木版画として制作
・奨励対象者 丁子 紅子 (日本)
- 《優秀賞》 賞金 15 万円 + 木版画として制作
・奨励対象者 Anuj Shrestha (米国)
- 《佳作》 賞金 5 万円
・奨励対象者 勝倉 大和 (日本) 荒井 かれん (日本)



「破片。」
大賞 丁子紅子 ポートフォリオ作品から



「Study I」
優秀賞 Anuj Shrestha ポートフォリオ作品から



受賞者と審査員 授賞式にて



授賞式後の歓談風景

〈事業内容〉

(2) 伝統木版画の制作技術者の育成事業

② 後継者育成事業

本事業のうち、伝統木版画の制作技術等の保存および育成に取り組んでいる現行唯一の任意団体「浮世絵木版画彫摺技術保存協会」に対する育成金交付については、育成対象者が無かったため、本年度も実施を見送った。一方、伝統木版画に強い興味と適正能力をもつ学生等を対象として、総合的に高度な専門技術を習得させることを意図した「高度技術者研修」事業についても、本年度は適性を有する該当者が無かったため、高度技術研修生の研修は見送った。また、第29期高度技術研修生を採用するにあたり、令和7年5月～令和7年12月まで募集を行った。本募集の告知は、本財団ホームページ及び伝統工芸職人の求人サイト「四季の美」での紹介、全国の美術系大学および専門学校や問合せのあった個人に対して応募要項を送付するなどして行った。その結果3名の応募者があり、選考の結果、第29期高度技術研修生（前期）1名の採用をすることとした。次年度からは、ワークショップの回数を増やすなどし、伝統木版画に対して深い興味を持つ学生などが応募しやすい環境を整える。

◆ 第29期高度技術研修生（前期/彫師）

中嶋みと葉（23歳 女性）

◆ 技術研修所

東京都新宿区下落合3-13-17

〈事業内容〉

(3) 伝統木版画の制作技術者に関する研修会の開催

③ 技術実演・研修事業

1) 技術実演会

主に大学・専門学校・高校などの教育機関、美術館および博物館などの文化施設を対象として、伝統木版画の制作技術等に関する啓蒙普及をはかるために、これまで本財団の理事ならびに評議員の中より伝統木版画の制作技術等に精通する数名を講師として要請のあった施設に派遣し、「技術実演会」を行ってきた。

本年度は、国内の美術館や博物館で開催される浮世絵の展覧会にあわせた技術実演の依頼を10件程度受けた。また、本財団常設展示場において平成9年10月から年数回、土曜日に実施していた「浮世絵版画実演会」については、摺の実演を5回行った。そのうち、8月の回は親子向けの体験付実演とした。また、職人を目指す方を対象にした実演会も1回開催した。各回の来場者の数や質疑応答の様子などは、伝統木版技術に対する関心度の高さを示すものであった。

実演・体験実施状況

- ・すみだ北斎美術館（令和7年5月）
- ・太田記念美術館（令和7年7月）
- ・多摩美術大学（令和7年7月）
- ・東京藝術大学版画研究室（令和7年10月）
- ・千葉市美術館（令和8年2月）
- ・日英協会（令和8年3月） 他

◆ 千葉市美術館

- ・実施日程 令和8年2月14日 午後2時-4時
- ・講師 摺師：京増与志夫（本財団評議員）
解説：中山周（本財団理事）
- ・実施内容 摺師による浮世絵版画「歌川広重 月に雁」の摺実演と伝統木版画に関する道具や制作等の説明・質疑応答及び体験
- ・参加者数 約200名



摺師の実演風景



完成作品を手に取る参加者

2) 研修事業

木版画に強い関心を抱く一般の愛好家を対象として、初級技術の習得を意図した「職人に学ぶ木版画教室」は、昨年度同様、全2回の1クラス（定員20名）にて実施した。また、平成26年度より始まった②後継者育成事業の研修対象者を選抜することを目的としたインターンシップ型研修会については、本年度は8月に実施した。募集の告知は、本財団ホームページでの紹介、全国の美術系大学および専門学校、また問合せのあった個人に対して応募要項を送付するなどして行った。その結果6名の参加者に対して、本財団で用意した教材を使用し、彫摺の基本技術を高度技術者から習得する目的の研修を実施した。本研修会の実施により、面接だけでは判断できない各参加者の技能を図ることができ、②後継者育成事業の研修対象者の採用において有意義であった。本年度は、本研修の参加者から第29期高度技術研修生（彫師）を1名採用し、令和8年4月より6ヶ月の研修を行う。

◆ 「職人に学ぶ木版画教室」の骨子

- ・ 研修テーマ 伝統木版画の基礎的技術の実践
- ・ 日 程 令和7年9月27日、10月11日 計2回開催
- ・ 場 所 本財団常設展示場
- ・ 参加人数 計20名（うち本財団賛助会員17名）
- ・ 研修講師 彫師：長谷川博美（アダチ版画研究所所属）
摺師：京増与志夫（本財団評議員）



参加者彫り風景



指導風景



摺師の実演風景



参加者摺り風景

◆ インターンシップ型研修会

- ・ 研修テーマ 研修生対象者の選抜を目的とした伝統木版画の基礎的技術の実践
- ・ 日 程 令和7年8月25日～8月28日（4日間）
- ・ 場 所 本財団常設展示場
- ・ 参加人数 計6名
- ・ 研修講師 彫師：長谷川博美（アダチ版画研究所所属）
摺師：京増与志夫（本財団評議員）



彫り指導風景



摺り指導風景

〈事業内容〉

(4) 伝統木版画の制作技術等に関する資料の収集及び公開

④ 技術展示紹介事業

現在の常設展示場が木版画の総合施設として一般公開され、本年度で21年目を迎えた。開設以来、本財団が保存管理する復刻版木（総数約1,200点）と多数の文献資料について、その整理を進めるとともに、新たに伝統木版画の制作技術等に関する資料（道具・材料・制作工程等）の整備も行ってきた。その結果、より充実した形で常設展示が行え、伝統木版画に興味を持つ多くの個人や団体が常設展示場を訪れるようになっている。

また、本年度も、教育機関、美術館および博物館などの文化施設において浮世絵展が開催されたのにあわせ、国内外から制作技術を紹介するために展示資料の貸出や体験用の版木制作の依頼を受けた。特に本年度は、大河ドラマ「べらぼう」に関連した浮世絵展が全国各地で数多く開催されたことを背景に、展示資料等の貸出件数も増加した。本財団常設展示場においては、企画展「復刻版で体感！ 歌麿・写楽のキラキラの魅力」と「世界的アーティスト アントニー・ゴームリー、キキ・スミス 新作オリジナル木版画 完成披露展示」の2つを開催した。②技術実演・研修事業での事業成果を発表する機会の一環として「職人に学ぶ木版画教室」作品展示会も例年通り実施した。加えて、本年度は4月に、東京国立博物館 表慶館において、主に「現代の浮世絵・国際創造プロジェクト」に招聘された国際的なアーティストの参加によって制作された現代の木版画が一同に展示される「浮世絵現代」展が本財団の共催によって開催された。

◆ 展示品および資料の貸出し等

浮世絵版画摺り順序、彫摺道具一式

- ・「浮世絵現代」展 東京国立博物館 表慶館（令和7年4-6月）
- ・「復刻版浮世絵版画展 北斎 ひらこう！アートの世界」桜美林芸術文化ホール（令和7年7月）
- ・常設展示 公益財団法人似鳥文化財団 小樽芸術村 浮世絵美術館（令和7年7月～）
- ・ミニ展示「浮世絵の道具たち」愛知県西尾市岩瀬文庫（令和7年8月）
- ・特別展『「べらぼう」におもしろい印刷展』北九州市立自然史・歴史博物館（令和7年10月-12月）



小樽芸術村 浮世絵美術館



西尾市岩瀬文庫

<常設展示場>

東京都新宿区下落合 3-13-17

◆ 企画展「復刻版で体感！ 歌麿・写楽のキラキラの魅力」

浮世絵版画の制作過程において、絵師・彫師・摺師を取りまとめ、完成品の出版から販売までを総合的に担った「版元」の仕事に着目し、その多様な創意工夫を紹介する企画展「復刻版で体感！ 歌麿・写楽のキラキラの魅力」を、令和7年10月21日より約1か月間開催した。本展では、とりわけNHK大河ドラマ「べらぼう」の主人公として注目を集めた蔦屋重三郎が生み出した、背景に雲母を用いる「キラ引き」の技法について、制作の観点から詳細に紹介した。浮世絵版画の制作と流通を支えた版元の役割に焦点を当てた展示として、来場者から好評を得た。また、海外からの来場者に対応するため、展示パネルの英訳をまとめた配布資料を用意し、こちらも好評を得た。本企画展の開催期間中には、より多くの方々に浮世絵版画の技術およびその継承活動への理解を深めていただくことを目的に、全8回のギャラリートークを開催した。各回ともに満席となり、伝統木版技術に対する一般の方々の関心の高さを示す結果となった。

- ・実施期間 令和7年10月21日～令和7年11月22日
- ・実施場所 本財団常設展示場
- ・来場者数 1,020名（日本人905名、外国人115名）

<ギャラリートーク>

- ・実施日程：令和7年10月24日（金）、11月1日（土）、11月5日（水）
11月15日（土）、11月19日（水）5日間全8回
- ・参加人数：各回定員15名



展示風景



ギャラリートーク風景

◆ 「職人に学ぶ木版画教室」作品展示会

令和7年9月から10月に開催された初級技術研修会「職人に学ぶ木版画教室」の参加者20名の制作作品の展示を令和7年12月16日から令和8年1月17日まで本財団常設展示場にて行った。

◆ 「浮世絵現代 UKIYO-E IN PLAY」

令和7年4月22日から6月15日までの50日間にわたり、東京国立博物館 表慶館において、本財団共催のもと「浮世絵現代」展が開催された。本展では、江戸時代に発展した浮世絵の制作技術を用いて制作された「現代の浮世絵」162点が一堂に展示された。展示は第1章から第5章までの構成となっており、様々な現代の浮世絵が制作されてきた背景を、パネルや映像などを通じて紹介した。また、第5章では、本財団が主催するアダチ UKIYO-E 大賞の受賞者による作品を展示するとともに、彫りと摺りの技術を映像で紹介するなど、本財団がこれまで取り組んできた後継者育成事業や普及活動についても詳しく紹介した。本展覧会には、会期中に8万人を超える来場者があり、今日まで連続と継承されてきた江戸時代以来の浮世絵制作技術と、その現代における新たな展開を広く紹介する貴重な機会となった。

会期 令和7年4月22日（火）～6月15日（日） 全50日間

会場 東京国立博物館 表慶館

主催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション

共催 公益財団法人アダチ伝統木版画技術保存財団

企画協力 エヌ・アンド・エー株式会社

入場者数 累計83,203人（4月21日の内覧会入場者を含む）

入場料 一般1,400円、大学生700円、70歳以上400円、高校生以下無料

参加作家 現代85名／江戸時代1名

展示件数 木版画163作品、関連資料（版木等）5件、映像資料17件

参考資料（木版画制作に関わる材料、道具等）一式

<特別イベント>

浮世絵版画 摺り実演

- ・日程 令和7年5月24日（土）10時30分～、14時～ 2回
- ・場所 東京国立博物館 平成館ロビー
- ・講師 摺師：長沼翔太（アダチ版画研究所所属）
解説：中山浩子（本財団理事長）



東京国立博物館表慶館



会場エントランス

〈事業内容〉

(5) 伝統木版画の制作技術等に関する情報の提供及び刊行物の発行

⑤ 情報提供事業

当該事業は、業界団体・研究機関・一般団体等が主催する展覧会等からの各種資料の貸出し依頼、また一般からの制作技術等に関する問合せ及び相談等の要請に応え、情報センター的機能を果たすものである。近年、DVD「匠達の技」(和英二カ国語版)の放映依頼が国内外で開催される浮世絵展にあわせて多くなっている。これは、浮世絵制作技術に対する関心の高まりを示すものといえる。また、和英併記にて制作した財団紹介小誌を国内外の美術館へ配布することにより、本財団の活動への理解が促進された。また例年に引き続き、本財団が展開する事業の成果や活動状況を賛助会員の他、広く一般にも伝えるために「財団レポート木版—令和6年版—」を令和7年7月に発行した。このレポートは、年度内に行われた事業報告を行うことを目的として作成され、収支計算書と併せて、本財団常設展示場の来場者を中心に一般に無償配布を行った。更に賛助会員に対しては、本財団の活動に関する最新情報をリアルタイムで告知するために、メールでの活動の報告も併せて実施した。

◆ 画像の貸出

- ・株式会社大阪宣伝研究所 (令和6年6月)
- ・株式会社日本入試センター (令和7年8月)
- ・株式会社インプレス (令和7年10月)
- ・株式会社ノーウェア (令和7年11月)

他約30件

◆ 本財団ホームページ

平成8年に開設した本財団のインターネットにおけるホームページでは、事業内容やその成果、伝統木版画に関する情報提供等を行ってきた。特に、情報センターや技術実演会への問合せの多くは、ホームページを通じてなされ、事業活動の活性化にとって、大きな役割を担っている。また近年では、海外の美術館から浮世絵展開催にあたり、制作に関する展示やDVD放映などに関する依頼も増えており、海外の方の伝統木版技術に対する関心が高まっている。そのため、本財団ホームページを平成28年7月に和英二ヶ国語対応、スマートフォンに対応したサイトへと改編した。また同時に、賛助会員の申込をホームページ上から出来るようにしたことで、海外の賛助会員の獲得にもつながっている。

- ・ホームページ URL <http://www.adachi-hanga.com/foundation/>

〈事業内容〉

(6) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

⑥ 木版画制作監修事業

当該事業は、伝統木版画の制作技術を高いレベルで維持・継承するために、浮世絵版
画の復刻事業だけでなく、様々なジャンルのアーティストを絵師として迎え、彫師・
摺師とともに新たな木版画を制作し、その監修を行うことで木版画の可能性を追求す
るものである。本年度は、世界的に活躍する Nick Walker 氏、Alex Dodge 氏、ロッカ
クアヤコ氏、Robert Lazzarini 氏、宮崎優氏、feebee 氏、町田久美氏の木版画制作
を第一級の技術者によって実施した。また、賛助会員向けの進呈作品には、本財団主
催のアダチ UKIYO E 大賞の受賞者である中島華映氏(第 15 回優秀賞)、Carmen Ng 氏(第
16 回優秀賞)に木版画のための作品提供を受け、制作が行われた。

◆ Nick Walker 「Tokyo Nectar」 (令和 7 年 7 月)

- ・画面寸法：天地 535 mm×左右 360 mm
- ・制作担当：彫／岸 千倉
摺／長沼翔太(アダチ版画研究所所属)



◆ Alex Dodge 「Ozymandias」 (令和 7 年 8 月)

- ・画面寸法：天地 390 mm×左右 270 mm
- ・制作担当：彫／岸 千倉
摺／長沼翔太 (アダチ版画研究所所属)



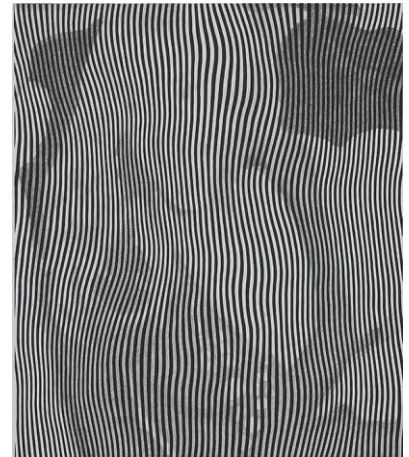
◆ ロッククアヤコ 「無題 3」 (令和 7 年 9 月)

- ・画面寸法：天地 330 mm×左右 525 mm
- ・制作担当：彫／岸 千倉
摺／岸 翔子 (本財団評議員)



◆ Robert Lazzarini 「Untitled」 (令和7年10月)

- ・画面寸法：天地 535 mm×左右 460 mm
- ・制作担当：彫／岸 千倉
摺／長沼翔太(アダチ版画研究所所属)



◆ 宮崎優「黄昏」 (令和7年11月)

- ・画面寸法：天地 352 mm×左右 240 mm
- ・制作担当：彫／長谷川博美(アダチ版画研究所所属)
摺／岩崎果乃女(アダチ版画研究所所属)



◆ feebee「寿という獣 午」 (令和7年12月)

- ・画面寸法：天地 230 mm×左右 230 mm
- ・制作担当：彫／長谷川博美(アダチ版画研究所所属)
摺／丹戸茉莉奈(アダチ版画研究所所属)



◆ 町田久美「ハレとケ」 (令和7年12月)

- ・画面寸法：天地 507 mm×左右 255 mm (各図)
- ・制作担当：彫／長谷川博美(アダチ版画研究所所属)
摺／京増与志夫(本財団評議員)



- ◆ 町田久美「雪の日 -first light-」
「雪の日 -signs of snow-」
「雪の日 -blue hour-」
「雪の日 -long night-」 (令和8年2月)

- ・画面寸法：天地 507 mm×左右 418 mm
- ・制作担当：彫／岸 千倉
摺／京増与志夫(本財団評議員)



第15回アダチ UKIYO E 大賞 優秀賞

- ◆ 中島華映「水底に沈む青」 (令和7年12月)

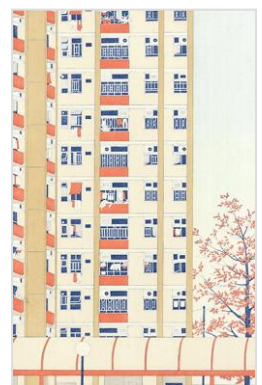
- ・画面寸法：天地 242 mm×左右 331 mm
- ・制作担当：彫／山下真佳(アダチ版画研究所所属)
摺／佐々木文寧(アダチ版画研究所所属)



第16回アダチ UKIYO E 大賞 優秀賞

- ◆ Carmen Ng「Neighborhood」 (令和7年12月)

- ・画面寸法：天地 360 mm×左右 230 mm
- ・制作担当：彫／山下真佳(アダチ版画研究所所属)
摺／長沼翔太(アダチ版画研究所所属)



令和7年度事業報告書 附属明細書

(自：令和7年4月1日)

(至：令和8年3月31日)

令和7年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

公益財団法人 アダチ伝統木版画技術保存財団